

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	感覚統合科学領域 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教育研究分野 氏名 工藤直美
指導教授氏名	松原 篤
論文審査担当者	主 査 黒瀬 顕 副 査 萱場広之, 副 査 伊藤悦朗
(論文題目) Immunohistological analysis of eotaxin and RANTES in the model animal of eosinophilic otitis media (好酸球性中耳炎モデル動物における eotaxin と RANTES の免疫組織学的分析)	
(論文審査の要旨) 好酸球性中耳炎は好酸球浸潤を特徴とする難治性中耳炎で、アレルギーによるとされるが詳細な機序は不明である。ヒト検体での解析は困難であることからモデル動物を用いて好酸球遊走因子の検討を行った。 モルモットの腹腔内に卵白アルブミン(OVA)を投与して感作を行った後、右鼓室内に OVA を投与して好酸球性中耳炎モデルを作成した。OVA を 7, 14, 28 日間投与した後側頭骨を摘出して病理組織標本を作成し、HE 染色による観察の他に、抗 eotaxin 抗体、抗 RANTES 抗体によりこれらのケモカインを免疫組織化学的に検出し陽性細胞数を調べた。左鼓室には生理的食塩水を投与しコントロールとした。 その結果、OVA 投与期間が長くなるほど内耳の鼓室階への好酸球浸潤が増加した。中耳粘膜では OVA の投与により eotaxin と RANTES はいずれも陽性細胞が有意に増加し、両者ともに 7 日より 14 日で陽性細胞の増加がみられたが、14 日と 28 日では両者ともに陽性細胞数の有意な変化はみられなかった。鼓室階では eotaxin と RANTES の発現細胞は認めなかった。 以上の結果から OVA 刺激による中耳の eotaxin および RANTES 発現と内耳の好酸球浸潤の増加との関連が明らかとなり、eotaxin や RANTES 陽性細胞の出現が好酸球遊走に関与すると考えられた。 本研究は、好酸球性中耳炎の発症および増悪にケモカインである eotaxin や RANTES の関与を指摘したもので、今後の好酸球性中耳炎の病態解明や治療法の開発に資するところ大であり、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	Acta Oto-Laryngologica 2017 に公表済み